株式会社バイナリーの沿革と変遷

1 会社の概要

- 会社商号　株式会社バイナリー
- 設立年月日　1982 年（昭和 57 年） 11 月 24 日
- 所在地　〒940-0841 新潟県長岡市花園南２－１９３（登記上住所）
  URL　http://www.binary-inc.co.jp
  mail　info@binary-inc.co.jp
  Tel.　0258-94-5043　Fax.　050-3606-1667
- 代表取締役　桒原　秀時
- 資本金　１000万円
- 事業内容　あらゆるソフトウェア システム（メインフレーム、パソコン、スマホ、マイクロプロセッサー）の開発と設計

2 システム開発の理念

『ものを造ることができる』これは単純ですが重要なことです。 もの造りの原点とは独創性に他なりません。
無理に適応させる為の順応策ではなく、弊社は独自の進化への試行策を探求し続けます。
宇宙の真理は総てが一体であることを教えています。
すべてがリンクし関連し合った自然の摂理に他なりません。
学術分野の垣根を越えて、より自然な、本来あるべき連係を見出した者こそが、新しいテクノロジーへの

扉を開くことができるのです。
『萬有一体』とは、弊社が技術開発を進める上での基本方針となるものです。

3 会社の沿革

弊社バイナリーは、1982年（昭和57年）にソフトウェア会社として設立され、およそ 40 数年間、あらゆるコンピュータシステムの開発一筋にまい進してまいりました。
メインフレーム（大型汎用コンピュータ）からパソコン、マイクロプロセッサーに至るまで、開発環境こそさまざまですが、提供する独創的なソリューションは、皆様から絶大なる信頼をいただいております。

- 1973年（昭和48年）以降、『日本電気 NEAC 2200シリーズのOS（オペレーティングシステム）開発』を始めとして、『旧三井銀行の貸付・外為オンラインシステム』、『住友信託銀行のローンシステム』、『首都圏労働金庫預金オンラインシステム』、『丸紅鉄鋼部の予決算システム』、『（株）旺文社の在庫管理システム』などなどの開発に従事してきた、栗原秀時（現代表）の個人事業所として発足する。

- 1982年（昭和57年） 有志盟友の賛同を得て、東京都豊島区駒込に『株式会社バイナリー』として法人登記される。その後、第一中央汽船の『船舶運航管理システム』、日刊スポーツ新聞社の『自動編集システム』、（株）旺文社の『大学入試模擬試験システム』、（財）日本英語検定協会の『実用英語検定システム』、などの開発に全面的に参加協力して高い評価を得る。

- 1995年（平成7年） 自動車用マイクロプロセッサー DTS（デジタル チューニング システム）の試作にも成功し、（株）旺文社のパソコン版学習システムの開発にも全面支援協力するなど、開発の主力をメインフレームから、パソコンやマイクロプロセッサーへと移行するきっかけとなる。

- 1999年（平成11年） 新規業務のため、千代田区三崎町に本社を移転登記する。
  （株）リクルートの『大学入試事典・推薦入学事典』、の自動編集システムを開発する。
  チケットぴあ、グルメぴあの会員管理、サイト管理システムなどの開発を協力支援する。

- 2001年（平成13年）業務拡張のため、新宿区山吹町に本社を移転登記する。
  『教育関連システム』を中心に、『メインフレーム』と、『パソコン』を繋ぐ、インターフェース部分に特異性を発揮し
  弊社独自の DB (Binary Pockets Access DB)を開発し業務の効率化に貢献する。

- 2009年（平成21年）更なる飛躍のため、本社を港区白金に移転登記、同じく高輪に事業所を新設し活動を開始する。

- 2012年（平成24年）東京ビックサイトでの、『教育ITソリューション EXPO』、に独自の教育ソリューション構想を出展し、
  長年培ってきた、独創的なソリューションの概念は、高い評価を得る。

- 2013年（平成25年）厚生労働省の『障害者自立機器等開発促進事業』にスマホを使った、
  『携帯版ガイドヘルパー(SYNAPS)』を応募提案し、事業説明会に出席。

- 2016年（平成28年）新潟事業所設立構想の市場調査と具体策の立案を開始。

- 2019年(令和元年) 新潟県長岡市に本社を移転登記し現在に至る。

以来、『文・教育ソリューション』はもちろんのこと、あらゆる業種の様々なシステム開発に、その『独創性と斬新性』、
『萬有一体』の開発理念をもって邁進している。